



山梨岳連

紙 名：野村静谷氏
 (毎日書道展審査員)
 発 行 山梨県山岳連盟
 (年4回)
 発行人 秋山 泉
 編集人 広報委員会
 (深沢 健三)
 事務所
 〒400-0304南アルプス市吉田166-2
 (望月 啓治方)
 (1部 100円)

山梨で中高年安全登山講習会

10月、岳連が主管

独立行政法人日本スポーツ振興センター国立登山研修所、山梨県教育委員会、日本山岳協会が主催する中高年安全登山指導者講習会(東部地区)が、今年の10月8日から10日にかけて富士北麓の人材開発センター富士研修所(富士Cam)で開かれる。

この研修会は、1989年10月、北アルプス立山で中高年登山者8人が疲労凍死した遭難を契機に、中高年登山者の安全確保を目的に毎年開催されているもので、最近、中高年登山者の遭難事故が増えるなか、実



昨年の中高年安全登山指導者講習会(栃木)

技や研究協議を通じ、中高年登山指導者に安全登山のための確かな知識や技術を習得し、広めてもらうことを目的にしている。

昨年度までは、国立登山研修所と都道府県の教育委員会が実施主体となり、全国を3ブロックに分け開催されていたが、今年からは国立登山研修所から委託された日本山岳協会が中心となり、開催ブロックも3カ所から東西2カ所に改め、日山協と担当の山岳連盟が実施主体となり、山梨と広島で開催する。山梨では北海道から三重県までの24都道府県の中高年指導者が対象となり、30~40人程度の参加者を見込んでいる。

山梨では、1997年に甲斐駒ヶ岳を中心に講習会が開催されている。当時は県教育委員会が実施主体となつて運営を行い、岳連は指導者を派遣し協力する体制だった。今回からは、岳連が主体的に運営し、逆に県教委は協力する体制となつている。

このため、昨年の栃木県那須での東部地区講習会に望月泰孝、羽田政人両副会長が参加し、運営についての視察を行つてきた。しかし今年に入つてからの日山協での登山研修所との打ち合わせでは、教育委員会に代わる実施主体の日山協と岳連のかかわりについて未定な部分も多く、詳細については今後さらに詰めていかななくてはならないと考えている。

今回の講習会の具体的な内容や講師など

は最終的には決まっていないが、昨年の北海道トムラウシでの大量遭難事故に絡めて、ツアー登山に潜む問題点や課題、低体温症の危険性などについて取り上げ、参加者とともに検討を行いたいと考えている。9日のセルフレスキューを中心とした実技や10日の研究協議では、各会の指導員の皆さんにご協力をお願いしているが、山梨の指導員登録者数は1986年のかいじ国体以降年々減り続け、現在は25人しか登録されていない。このため、できる限り多くの指導員の皆さんにご協力をお願いしたいと考えている。(理事長 小宮山稔)

上級指導員の養成講習会

日本山岳協会主催の山岳上級指導員養成講習会が、6月19、20日の2日間、小瀬クライミング場で開催される。この講習会は、現在のアルパインクライミングを対象としている上級指導員資格を、スポーツクライミングにも適用可能とするため、20時間の移行講習を行なう。対象者は現在、上級指導員資格を持ち、かつ5・11を登攀可能な者となつており、非常にハードルが高い内容となつている。

指導員資格については、県のスポーツ指導者バンクもあるが、資格取得の労力に比べその有効活用が見つけにくく、取得も含め更新者も年々減少している。しかし国体改革の一環として、平成25年までには山岳競技の国体監督には指導員の資格取得が義務付けられており、現在、各県においては関係者の資格取得が急務となつている。国体改革への対応とあわせ、中高年安全登山指導者講習会へ向けて受講をお願いしたい。

山のニュース 山の本 山梨日日新聞 「やまなしの富士」発売中

購読の申し込みはフリーダイヤル0120-320-117

本の申し込みは055-231-3105

多彩な事業を展開 山岳トイレ研究も

平成22年度定期総会開く

山梨県山岳連盟の平成22年度定期総会は5月8日、甲府・地場産業振興センターで開き、10月に山梨で開かれる全国中高年安全登山指導者講習会(東日本地域対象)を主管する活動方針などを決めた。

総会は約60人が出席。秋山教之副会長のあいさつで開会した。秋山会長が「登山界は今、登り方がバラエティーに富んできている。先ごろ主催した講演会の三浦雄一郎さん、佐藤祐介君や天野君、トレイルランの山本先生など、県内でも多彩だ。その人たちから感じるのは楽しさ、純真、真摯なことだ。私たちも一つ一つの山行を丁寧



総会であいさつする秋山泉会長

にしたい。今年も皆さんの協力で岳連を盛り上げていただきたい」とあいさつ。来賓を代表して県警地域課の藤原課長の祝辞があった。

秋山会長を議長に議案審議に移り、平成21年度事業報告、同各種決算、22年度事業計画、同各種予算案を原案通り可決した。

事業では中高年安全登山指導者講習会の主管、12月に初めて開かれるクライミングの全国高校選手権への選手派遣、国体派遣、中国四川省への登山隊派遣、山岳トレインジャー、山岳トイレ研究などが決まった。

また内藤順造日本山岳協会副会長(専務理事)が①日山協の新公益法人化への動き②子どもたちへの働きかけ強化③競技力強化とクライミング指導者養成④山の日制定への取り組み強化⑤日山協50周年事業の展開と記念式典(23年1月15日)ーなど、全国の動きを紹介した。

閉会后、8月の四川省登山の準備として同省の山岳映像上映会を開いた。

定経路ルート一部変更

山岳レインジャー始まる

5月8日、県山岳連盟総会で知事から委嘱された山岳レインジャー証が配布され、本年度の活動がスタートした。本年度は17山岳会128人が登録し、5月から10月まで白根三山、

鳳凰三山、甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳、八ヶ岳、奥秩父の5山域の高山帯で、それぞれ「定経路調査」「探索調

査」として希少種の調査活動を展開する。新制度から3年目に入り今年も例年通り、

2人1組の1泊2日、及び日帰り含めた延べ調査人数228人となった。山梨県の自然環境への理解と熱意、年々高まる山岳連

盟各山岳会の山岳レインジャーの積極的かつ意欲的協力に大変感謝したい。

スタートに先立ち4月28日、調査活動をより精査するため、本年度も山岳レインジャー研修会を実施し52人が参加した。基本

的事項は例年と同じだが、大きな変更点は定経路調査ルートの北岳を6ルートから2

ルートにまとめ、八本歯コルより東側ルー

トの取り止め、鳳凰三山2726mピークへのルート延伸、八ヶ岳の県界尾根ルートを取り止め新たに三ツ頭から権現岳へのルート設定、新たに奥秩父の瑞牆山荘から富士見平ルートの追加など、前年度の実績から変更した。研修会では2010年度版調査業務実施要領を元に研修を行い、実施要領、希少野生植物モニタリング調査、高山植物の観察マニュアル、報告書用花の写真撮影技術などを学んだ。

山岳レインジャーの業務目的は①希少野生植物種の調査(各山域における生育及び開花状況調査)②高山帯に生息する野生動物の報告(シカ、サル、ライチョウなどの被害確認及び目撃情報)③その他必要に応じて行うもの(登山における美化・保護など各種指導、その他の高山植物開花状況確認)ーと幅広い。これらの活動は山梨の山

岳環境を守る意味で大変意義が深く、毎年のデータを蓄積することにより貴重な資料となりうるもので、本年も引き続き精査した報告をお願いしたい。また昨年から実施している希少種18種のほか、これらに準ずる絶滅危惧種についての調査、近年著しく被害が拡大しているニホンジカによる植生変化なども大変重要で、調査できる範囲でお願いしたい。

山岳レインジャーを対象にした現地研修の高山植物学習会は、今までに14回実施した。本年度もレインジャー業務を兼ねて実施する。1回目は6月12日、新たに定めた瑞牆山、以降は秋の花を主体に8月下旬に白根三山1泊2日、9月上旬に鳳凰三山1泊2日を計画している。より知識を深める意味で積極的に参加をお願いしたい。

山岳レインジャー活動は高山帯での大変な苦勞が強いられる調査だが、山梨の自然環境を後世に伝えるべき使命を認識し、事故のないよう安全第一で活動を展開していただきたい。

(自然保護委員長 磯野澄也)

登山・アウトドアのプロショップ
OUTING PRODUCTS
エルク
〒400-0047
山梨県甲府市徳行4-13-9
TEL: 055-222-1991
e-mail: elk@elkinc.co.jp
http://www.elkinc.co.jp
☆ホームページもご覧ください!!!



クモイコザクラ

山岳トイレ整備

山梨の山岳環境は、他の地域と違って開発が遅れていたために逆に手つかずの自然環境が守られてきたが、近年の登山ブームで荒れてきた。山の自然環境の破壊の一つに山でのし尿処理問題が挙げられる。そのため県内の山小屋や山岳トイレを整えることが早急に求められている。

自然保護委が研究会

様々なパターン検討へ

山梨の高山はほとんどが国立公園や国立公園であり、その山域に山小屋があるため施設の建設には様々な規制がある。公共施設の山小屋は行政の手で改善されるが、個人経営の山小屋にとっては多くの条件が付いて簡単には改善につながらない。しかし昨今の登山ブームによって多くの観光ツアー登山者が入山しており、登山人口は増加し続けている。特に高山でのトイレ施設の問題は大きな課題となっている。

多くの利用者が公共的に使用するトイレの設置は山小屋だけの責任に任せるのではなく、公共的な利用面からも公衆トイレの性格を持つている。また山のトイレの処理方法については登山者のモラルが最も問われるが、し尿処理の問題は自然環境を保護保全するためにも登山者や山小屋と地元自治体との連携や協力が不可欠で、トイレが未整備の状態が多い山梨県の山域では回収

システムの構築が必要である。その一環として、我々自信が山を利用する立場から様々な山を守るための方策を考えたい。この間、開いてきた山岳トイレ研究会での報告などをもとに、対応案をまとめた。

①トイレの有料化（入山料や環境協力金などに包含した徴収システムを考える）
下記に示す事例は、設置や維持管理に高額な経費を必要とするため、バイオトイレなどを設置している山小屋のトイレ整備や維持管理に要する経費として、利用者負担を考える。

（公衆トイレの実例）

A 太陽電池システム使用の山小屋

な風車発電である。テレビ、通信用、小さな電灯であればそれなりに役立つ。

D 山岳高地用トイレとしての独立型自然エネルギー利用乾燥トイレ
水分は蒸発させ、固形廃棄物がほとんどでない乾燥トイレは一基約6kwの電力が必要となるため、山岳地域では太陽電池や風力発電で電力を得る必要がある。

*汚物を乾燥させ、粉末化して紙パックに回収し一般ゴミとして処理する
*し尿をカートリッジタンクに溜め、ヘリコプターで搬送する方法
*水洗並みの清潔感が維持できる
しかしながら標高の高い山岳地域のし尿処理には低温という問題がある。水温が5℃以下の低温の所では生物処理能力(適温20℃~30℃)が著しく低下する。そのため太陽電池システムを利用することは十分有効な手段と言える。

④登山者など利用者の意識向上のためのPR活動
例えば、南アルプスでは携帯トイレが必ず不可欠であることを浸透させる。山小屋では分別処理をしたり、携帯トイレを配布、利用しているなどをPRする。シーズン前に登山者に常備させる啓蒙活動を都会や地元で行い、登山口などに携帯トイレの利用のためのPRの看板などを設置する。

⑤持ち帰りトイレの有料配布
（自然保護委員会山岳トイレ研究会座長 遠山若枝）

太陽電池システムで対応している電力は、非常用設備、FAX電源、常夜灯、厨房用照明、泡洗式トイレの電源、トイレの臭気ファンの電力などに使用されている（バイオトイレ、水洗トイレ、分別処理型トイレなどがある）。

B 水力を利用した超小型（可搬型）マイクロ水力モデルの普及
水車、発電機、制御板をコンパクトに一つのボックスに収納した可搬型装置である。

C 風力発電利用
風車を使ったマイクロ風力発電とは、出力が10w程度から1~2kw程度の極小規模

②山頂の山小屋の通常のトイレを閉鎖して簡易トイレの設置を考える。
収集方法は分別処理で行い、シーズンだけの仮設トイレか箱物だけのトイレ部屋にして携帯トイレを使用すると、山小屋内に設置することができる。効果は臭気の心配がなく衛生的である。汚物処理の経費や人件費の増加などの維持管理の心配を軽減するために、シーズン中だけの利用とし、汚物の分別処理で水分は蒸発させ固形物は一般廃棄物として焼却処理できる。固形物はヘリで荷揚げの時などを利用して地元以降ろす。

③山小屋での携帯トイレ、紙袋などを分別

医療法人 立史会
理事長 今井立史(スポーツドクター)

今井整形外科医院
TEL 055-232-7411

お年寄りのリハビリと介護
介護老人保健施設 **ノイエス**
TEL 055-275-1165

山 行 記 録

内蔵助平べースに
次郎長谷から剣岳

●：縦の木山岳会

5月1〜4日 ▽参加者 C L三枝昌彦、S L白井政明、井上和彦、片井稔、中村隆幸、白井武、梨本昇一、森嶋正秋(縦の木山岳会)

1日 都留市出発―扇沢発7:00―黒四ダム7:30―内蔵助平11:30

今年は何年になく残雪が多い。黒四ダムの登山者用出口に着いてみると、外に出るのにハシゴが架けてある。2mほどの高さを持ち越えて外に出る。沢を真っ直ぐに下降。沢底に着き凍った丸太橋を渡り対岸の内蔵助谷出口に向かう。残雪のため沢の水も所々しか見えない。内蔵助谷への道は例年右岸を通るが、今年は残雪のため左岸を巻いて沢筋に降り立つ。所々穴の開いた雪渓を登り、左手に丸山東壁を眺めながら高度を上げ、3時間半程かかって内蔵助平下の平に着く。上の段まで登ってテントを張る。



剣岳山頂で

2日 テント発3:45―ハシゴ谷乗越4:45―剣沢5:45―長治郎出合7:00―熊の岩9:00―稜線11:30―山頂12:10(12:30下山開始)―稜線13:15―長治郎出合14:00―ハシゴ谷乗越16:30―テント帰着17:15

2時半起床で餅入りラーメンを食べ、暗いうちにテントを後にする。ハシゴ谷乗越まで体調を整えながらゆつくりと登る。例年のルートよりも別山寄りの尾根に取り付く。稜線に出てから尾根を少し下り、最低鞍部からトラバースして剣沢への登山道の尾根に出る。剣岳が朝焼けでとても素晴らしい眺めだ。少し尾根を下り、途中から左の斜面を剣沢へ真っ直ぐ下る。沢筋に下りた所で左の小尾根にトラバースし、尾根を越えて真砂沢口に着く。ロッジは残雪に埋もれ小高い丘に見えるだけ。

私たちは長治郎谷出合まで登る。昨日の冷え込みが弱く気温が高かったため、雪は縮まっておらず時々膝近くまで潜ってしまった。途中で白井がテントにサングラスを残してきてしまったことに気付く。度の弱い老眼鏡を加工して何とかしのぐ事にする。視界の少ないメガネでの登攀は厳しい事である。

長治郎雪渓に入り雪の締まっているところを選んで登る。源治郎尾根に取り付くパーティーが2、3パーティー。八ツ峰に取り付くパーティーはかなり多かった。すでに八ツ峰稜線をたどっているパーティー、ルンゼを稜線目指して登るパーティー。今年に残雪は多いが雪が締まっていなため、軟雪に足を取られ大変なアルバイトになっている。

熊ノ岩で左俣に入る。新雪が40cmぐらい積もってその下の雪面も凍っていない。11:30、稜線に出る。頂上に向かう稜線はザ

イルをフィックスして登らなければならぬ。ところが混雑している。下降するパーティーが一人一人ゆつくりと下降している。私たちは8人という大勢なので隣にザイルを張り、テープでチェストハーネスを作り、タイプロックを使って速やかに通過。予定より10分遅れて登頂。軽く食事を摂り、雪の中の一番高い位置で記念写真を撮り、下山に移る。

先ほどのザイルをフィックスしたままにしておいたので、メインザイルにヘッドオンで固定し、頭を滑らしながら下降する。雪稜にアングルのスノーバーが2本打ち込んであるので幾人かが同時に下降し、白井がラストで中村が確保しクライムダウンで下降。鞍部に着いたメンバーは一足先に剣沢目指して下り、腐った雪に足を取られながら、所々シリセードで剣沢へと急ぐ。まだハシゴ谷乗越への登りが控えている。途中長休みもしないで急斜面をひたすら登る。

尾根に出た頃は日も傾き、急激に気温が落ちて雪面は滑りやすくなってきた。最後のトラバースは慎重にと注意しながらハシゴ谷乗越に着く。内蔵助平のテントを見て一安心。白井の雪眼も心配なく全員無事帰着した。

3日 終日休息。

4日 内蔵助平7:30―出合8:30―ダム下9:30―黒四ダム駅10:00―扇沢10:30―大町温泉入浴―都留市

西の空に雲がわいてきたので天気が変わるかと思いき、急いでテントを撤収し下山に移る。あまりにも天気が良かったので、沢筋のブリッジが落ちていないか心配だ。所々入山時とルートを変えながら出合へ。天気は晴天、朝の雲は何だったのか。

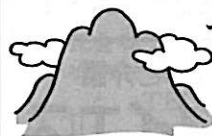
(三枝 昌彦)

瑞牆・金峰・横尾の山行時には

〈コーヒー・季節料理・お食事・宿泊〉

みずがきの宿 五郎舎

ごろうや
でおくつろぎ下さい。



TEL(0551)45-0329

中・高年3人で中房から
燕岳―大天井岳を往復

●：鶴城山岳会

5月2〜4日 ▽メンバー 葉袋興児、久保田二雄、小河内信也(鶴城山岳会)

4月の例会で、G・Wは内蔵助平から剣沢を上がつて立山縦走というプランに一同気合も入っていたが、富山県警ホームページの春山情報や航空写真を見るにつけ、例年になく雪の多さにたじろぎ、我々中・高年3人組は分相応にコース変更。中房温泉から燕岳―大天井岳ピストンになった。

2日(快晴) 高速の混雑を避け甲府を4時発。約2時間で中房温泉に着いた。ガイドマップによると北アの3大急登に数えられるという合戦尾根は、確かに最初から急勾配。日頃の運動不足をのりいながら第1ベンチ、第2ベンチ、第3ベンチ、富士見ベンチと、休憩ポイントがあるたびに休みを入れ、中・高年登山者で賑わう合戦小屋は11時15分。久保田画伯の背負うキスリングとウッドシャフトのピッケルは、特に高齢の男性登山者の郷愁を誘っていた。合戦沢の頭で森林限界を越えるとアルプス銀座

の稜線が見えてきて、展望に励まされながら登ったが、この頃には大バテ状態。休み休み歩いて、燕山荘につく頃には14時近くになった。燕岳に行く元気もなく、テントを張ったら速攻で宴会となった。

3日(快晴) 明日も天気は続きそうだし、今日あわてて帰る必要もなく、のんびり登山で行きましよう、と本日はゆっくり7時に出発。朝方少し風が出ていたが、少し歩くと体も温まり、快適な稜線歩きとなった。右手にだんだんと近づいてくる北鎌尾根はすごい迫力だった。大天井岳への登りはきつかったが、振り返ってみると素晴らしい展望に癒された。帰り道、蛙岩付近

「カリスマ」ルート 基部から完登達成

●山森 政之

2009年の春、不注意から左手薬指のじん帯をひどく痛め、2カ月間岩に触らない生活を余儀なくされた。大好きなボルダリングをするには指への負担が大きすぎるため、その後も続くリハビリクライミングに苛立ちながらも、回復の兆しがかすかに見えてきたある日、クラブの仲間が太刀岡山のカリスマ(5・13a)をトライするというので同行させてもらうことにした。

カリスマは太刀岡山の岩場の看板的存在であり、山梨を代表する課題として常に人気を博す有名人だ。私自身も8年前に登っているのだが、ひとつだけふに落ちない記憶も心に刻まれていた。それは、ルートの出だして3mほど木を登ってから岩に移るといふスタート方法にある。登りだしのスタンダードとして定着しているこの方法も、考えてみると実に不自然なスタートなのだが、そういう自分も過去には心の弱

でライチョウを写真に収め、天場に就いて14時30分。空身になって燕岳往復1時間。葉袋先生はじっくりと夕刻のシャッターチャンスを狙っていた。

4日(曇りのち晴れ) 今日下るだけだからと油断していたら、ひとりサンダラスをしていなかった久保田画伯が、なんと雪眼になってしまった。下山中、目を潤ませながら辛そうにしていたが、女性パーティーとすれ違うときはなぜか元気に会話しているの、ちよつと突っ込みを入れるも「人間、集中するとよく見えるようになるもんだ」とのこと。芸術家の根性を見た気がした。(小河内)



「カリスマ」ルートに登る

さから木を使って登っていることに、内心納得できていなかった。

この日は、久々の岩の感覚を確かめるように数本のルートを登ってから、あらためてカリスマのラインを観察してみた。確かに地面から3mほどは薄いへこみが連続して極端に難しいように見え、以降連続するボジティブなホールドをたどる爽快なルート内容とは異質の「いやらしいムーブ」を連想させる。これを嫌って初登者が敬遠したのか、それとも岩に沿うように伸びた木を自然の一部として利用しただけなのか? 確かなことはわからないが、ガイドブツ

クの「出だして木を使う」という記述はなんとも押しつけがましい。

いつもより多めにチョークを塗り込んだ手で頬をひとたたき。気合いを込めてからホールドを探りにかかったのだが、意外なことにはすぐにムーブは解決した。それどころか、なんと易しい。ボルダーグレードで5級か4級といったところか。プラス5ムーブとクリップを考慮しても13aがbになるということはないだろう。

そんなこともあって、いきなり登れるのではないかと期待したのだが、サーティーンはそんなに甘いわけもなく、腕が怒張の極みに達すること度々。この日は登れず凹みつつも、ジムで調整して挑んだ後日、なんとか地面から終了のテラスへと乗ることができた。普通ならここでロープをかけてロープダウンするのだが、この時はビレーヤーにひと声かけたあと、岩のてっぺんまで続くスラブを駆け上がった。

なんとも言えない満足感とともに、心の中にあつた「しこり」が霧散する。指の痛みはすつかり忘れていたが、けがも無駄ではなかった。地面から岩のてっぺんまで登り切る。単純だが自分の納得のいくスタイルでついに登れたカリスマは、これまた格別の喜びを与えてくれた。

最南の3千以聖岳 残雪踏んで単独行

●上原 昭則

- 5月2日 甲府5・20 | 便ヶ島8・50 | 2314m15・00
- 3日 テント6・10 | 小聖7・40 | 前聖岳9・10 (9・50) | 小聖10・20 | テント11・15 (11・50)

日本アルプスの一番南に位置している3

千m峰が、聖岳だそう(ちなみに富士山のほうが緯度的には南にある)。南ア最深部にあるこの山は、なかなか行く機会がなかった。地図を見ているうちに、単独行にちよつと良さそうと思い、今回行ってみた。

遠山川沿いに林道28km。南アルプスを象徴するような山間だ。そこから水平距離6kmで一気に2km余りを登るルート。軌道跡を西沢渡へ。1人で綱を引くのに大変苦労するが、りっぱな「渡し」が架かっている。そこから急登の始まり。「焦らず、あわてず、ゆつくりと」なんていう看板に励まされて、樹林帯をあえぎながら登る。2kmを過ぎたあたりからやつと雪が現れ、木々の間から茶臼岳、上河内岳が見えてくる。聖平小屋で泊まるうかと思っていたが、どうも先行者が多そう。2314mの三角点でテントを張った。

3日朝、良く締まった雪にアイゼンを効かせて小聖へ。このあたりの森林限界は2500m位だ。快晴の中、山並みの先に絵のような富士山が見える。ここからやせた尾根を慎重に進み、前聖への大雪面に入る。日当たりが良かったためか、雪面のところどころに夏道が出ており、アイゼンをがりがりさせる。敵しいと思つたら、この斜面は標高差が400m位もあった。軟雪、アイスバーン、夏道のミックスは、これでもかと五月の山を楽しませてくれる。

あえいで前聖に着くと、そこには標柱も何もなし。雪の下なのか、これもまたいいものだ。眼下にはかつて登った赤石沢が、きれいに切れ込みを作っている。あの夏の日にはしばし心が遊ぶ。南ア南部の山々をしつかり脳裏に刻み下山する。急登の下りは辛い。かつては飛ぶように(?) 下つたのに、痛めた足が再発しないようにとゆつくり帰る。(鶴城山岳会)

男子は遠藤がV 女子は安田制す

ボルダリング山梨カップ

4月18日、クライミングジム・アクティバ(山梨市)で、第3回となるボルダリング山梨カップを開催した。

山梨カップはその年の国体代表選手選考会も兼ねているため、IFSC国際規則に準じた厳格なルールで行うのが特徴で、競技は真剣勝負。選手、役員ともにスキルアップの格好の機会となっている。アクティバは20坪足らずのボルダリング施設で、昨年同様の競技内容を確保できるか心配もあったが、男女混合同一課題で予選を行うなど、運営方法について練ったかいがあり、今回も熱戦が展開された。

女子は安田あとりが他を寄せ付けず優勝。次点には渡部咲樹(山梨北中2年)が付け、年齢制限がクリアできる来年は国体選手としての期待もかかる。

対して男子上位は接戦。順位はばらけたが、課題ごとに見ると一手ごとのポイントの差であった。それぞれに勝負所があったが、決勝2課題目を唯一完登した遠藤拓真(28)が、若尾龍隆(16)、大森僚(22)という若手成長株を抑えて優勝した。しかし4位の有賀弘(山梨クライマーズクラブ)



少年男子2位の田中慎一

は42歳。予選も2位と安定した実力者だが、本格的にクライミングに取り組んだのは35歳からという遅咲きの選手も頑張っていた。(競技委員長 山森政之)

成績は次の通り。

- ▽男子 ①遠藤拓真(★成男1位/甲斐市) ②若尾龍隆(★少男1位/山梨市) ③大森僚(★成男2位/甲斐市) ④有賀弘(成男3位/北杜市) ⑤田中慎一(★少男2位/韮崎工高) ⑥松本竜次(成男4位/甲斐市) ⑦瀧浪優真(少男3位/富士宮西高) ⑧米山修平(少男4位/富士宮西高)
- ▽女子 ①安田あとり(★少女1位/英和) ②渡部咲樹(少女2位/山梨北中) ③花田莉奈(少女3位/須玉中) ④平塚夏生(成女1位/富士宮市) ⑤矢崎莉奈(★少女4位/塩山高) ⑥河野明理(少女5位/山梨高) ★印は国体代表内定

29回目の深田祭開く

4月19日、無風快晴の中、第29回深田祭が開催された。午前中は茅ヶ岳へ記念登山、約200人の登山者だった。

深田公園での碑前祭には約1500人が集まり、ミニ講演会では、県立文学館長の近藤信行さんが、深田さんとの親交を語った。また葦崎合唱団によるコーラスで山の歌が会場に響き渡った。この後、近藤館長、福田敏明葦崎市副市長、秋山泉白鳳会長、田中美夫副会長の座談会が行われた。

2011年版は「山梨の山」

カレンダー作品募集

岳連カレンダー委員会(小沢利一委員長)は、2011年版のオリジナルカレンダーに掲載する写真を募集している。締め切りは7月10日。オリジナルカレンダーは8年目に入る。来年のテーマは「山梨の山」。山梨の高山、低山、藪山など、四季の山岳風景が対象。応募要領は次の通り。

▽対 象 山梨の山岳連加盟の山岳会員、その関係者(友人、知人可)
サイズはカラープリント四つ切り単写真(ワイド四つ不可)。ネガ、ポジ、デジタルは問わない。採用は1人1点で、採用の際は原画を提出する。作品は自分の撮影で未発表のもの。応募票に必要事項を記入して作品の裏面にセロテープで貼る(のり付け不可)
▽審 査 カレンダー委員会を中心にやって行う

7月10日
加盟山岳会の岳連理事、または400-00031 甲府市丸の内1-18-11 甲府市役所内郵便局 小沢方、山岳連盟カレンダー写真募集係(電話055-237-8275)。問い合わせは鈴木勝彦さん(0551-32-5505)

▽締め切り
▽応募先

●新アタック百名山

山梨メープルクラブ(雨宮洋一会長)編の『アタック山梨百名山』が全面リニューアルし、『新版アタック山梨百名山』として山梨日日新聞社から出版された。

A5判、214頁。平成17年の旧版から5年たち、コース状況が変化したことから全面改定した。奈良田からの新ルートが開かれた笹山を始め、行政のコース整備、自然災害による変化など、最新の情報でコースを紹介している。1600円+税。

●7月10日に「山の博覧会」

第6回山の博覧会「山を知ろう 山へ行こう」(日本山岳会山梨支部主催)が、7月10日午前10時から山梨学院メモリアルホールで開かれる。今年のテーマは「八ヶ岳」。自然の魅力や

YATSUGATAKE
パイの家
 エム・ワン
 八ヶ岳*手づくりアップルパイ
 有限会社 パンの家エム・ワン
 〒409-4502 山梨県北杜市大泉町谷戸5883
 TEL.0551-38-4181
 FAX.0551-38-4409
 URL http://www/pai-ml.co.jp
 E-mail info@pai-ml.co.jp
 (地方発送も承ります)

歴史、信仰について3人が講演する。青年小屋の竹内敬一さんが「八ヶ岳の魅力と危険」、県立考古博物館の保坂康夫さんが「縄文の八ヶ岳」、小淵沢・高福寺住職の水原康道さんが「八ヶ岳の信仰」と題して講演。YBS山梨放送の映像「八ヶ岳」100万の奇跡に魅せられて」を上映する。終了は午後4時ごろ。無料。申し込みは山梨学院生涯学習センターHPから「山の博覧会」へ。または知り合いの日本山岳会員へ。

北岳 間ノ岳 仙丈ヶ岳 甲斐駒ヶ岳 鳳凰山
 百名山の玄関口
 南アルプス
広河原山荘

 南アルプス市広河原
 電話090-2677-0828

理事 会 報 告

■平成22年2月常任理事会

2月24日(水)午後7時〜 男女共同参画センター「びゅあ総合」

○協議項目

1 小瀬クライミング場にある岳連所管用具について

「管理、使用料徴収、更新」について
競技委員会で作案をつくり理事会へ提案
平成22年度事業計画について

2 南アルプス市芦安グリーンカップは、安全面に問題があるので市に対して申し入れる方向
3 県体協提案のクライミング教室実施について

4 協議しつつ進める方向
その他
クライミング上級指導員養成講習会の実施 6月19、20日 小瀬クライミング場

■3月度理事会

3月3日(水)午後7時〜 男女共同参画センター「びゅあ総合」

○協議項目

1 平成22年度事業計画について
平成22年度中高年安全登山指導者講習会(東日本)について

開催時期 平成22年10月8〜10日
開催場所 富士北麓(宿泊地 人材開発センター)

各会に実技講師の打診、次の理事会までに報告
南アルプス市芦安グリーンカップの中止について

施設の安全面に問題があり、現状では開催が困難なことを市に申し入れた。
代替大会を開催するのであれば競技委員会にて検討(6月頃)

その他

平成23年に日山協海外委員会総会を山梨で開催について

中国四川省海外登山隊の募集について
8〜9月の9日間

■4月度理事会

平成22年4月7日(水)午後7時〜 甲府市総合市民会館

○協議項目

1 関東ブロック大会審判員及び総務委員の推薦について

審判員は矢花常任理事
総務委員は小宮山理事長
中高年安全登山指導者研修会実技講師について

2 各会指導員資格保有者へ依頼の方向で進める
3 小瀬クライミング場用具管理について
競技委員会からの提案を了承、その方向で進める

4 その他
正会員の變更について 青木茂氏から秋山会長に變更

■5月度理事会

平成22年5月8日(土)午後1時30分〜 山梨県地場産業センター

○協議項目

1 定期総会議事事項
平成21年度事業報告及び収支決算報告について
平成22年度事業計画(案)及び収支予算(案)について

2 原案どおり総会へ提案
その他
「山の博覧会」の後援について↓了承
山岳レインジャーの実施について↓配置計画など実施について了承
中高年安全登山指導者講習会の実技講師について

別紙の各会指導員資格所持者へ依頼
日本山岳遺産基金への協力について
執行部へ一任の承認

活 動 記 録

3月1日 会報79号発行

3日 理事会(甲府市)

16日 競技力強化会議(甲府市)

27日 クライミング認定講習会(小瀬)

31日 自然保護委員会(甲府市)

4月4日 日山協競技委員総会(東京)

7日 理事会(甲府市)

14日 競技委員会(甲府市)

18日 第2回山岳トレ研究会(甲府市)

18日 ボルダリング山梨カップ(山梨市)

19日 競技力強化会議(甲府市)

23日 「三浦雄一郎」氏講演会(甲府市)

28日 山岳レインジャー研修会(甲府市)

29日 会計監査

5月8日 理事会・平成22年度定期総会(甲府市)

16日 日山協総会(東京)

22日 国体関プロ大会審判員会議(群馬)

26日 自然保護委員会(甲府市)

5月〜9月 山岳レインジャー活動

行 事 予 定

6月1日 会報80号発行

2日 理事会(甲府市)

6日 遭対委ロープワーク講習会(小瀬)

12日 自然保護委・高山植物学習会(瑞牆山)

19、20日 上級指導員養成講習会(小瀬)

27日 岳連リード競技会(小瀬)

30日 第3回山岳トレ研究会(甲府市)

7月7日 理事会(甲府市)

10日 第6回山の博覧会「八ヶ岳特集」(甲府市)

2011年カレンダー用山岳写真募集締め切り

17、18日 第65回国体関プロ大会山岳競技会(群馬)

24日 クライミング認定講習会(小瀬)

28日 自然保護委員会(甲府市)

8月1日 山梨山の日チャレンジ登山事前学習会(甲府市)

4日 理事会(甲府市)

8日 山梨山の日チャレンジ登山(乾徳山)

21、22日 親子登山教室(甘利山)

25日 第4回山岳トレ研究会(甲府市)

8月下旬〜9月上旬 中国四川省海外登山(予定)

ISO 14001 認証取得
ISO 9001 認証取得

真心と確かな技術



株式会社

早野組

代表取締役社長 早野 潔

本社/〒400-0807 山梨県甲府市東光寺一丁目4-10 ☎055-235-1111
東京支店/〒193-0835 東京都八王子市千人町2-5-24 ☎0426-67-8800
リニューアル室/ ☎055-232-0200

細沢カールをスキー滑降



大雪面のカールを下る



スキー滑降のルート

5月1〜3日 ▼メンバー 金丸祐司
 (御坂山岳会) 橋本誠 (山梨アルパインク
 ラブ) 亀田博生、植松一好 (白鳳会)
 1日(無風快晴) 甲府盆地から真つ白
 な間ノ岳細沢カールがよく見える。山頂か
 ら滑り下りたらさぞ気持ちいいのだろう。
 日々思うが、板を担いで夜叉神を越え、登
 山道の無い弘法小屋尾根登るには、相当な
 アルバイトが想像できる。しかし滑り下り
 たい衝動が止まらない。メンバーに投げか
 けると皆行きたいと言う。
 5時、皷沢の県合同庁舎集合。7時半、
 奈良田の開運トンネル前に駐車。土曜日で
 工事車両が入っている。ゲート前には管理
 人もいる。最初は通つてはいけないと言っ
 ながら強引に突破する。しかしトンネル内
 のダンブとのすれ違いは物すごく怖い。本
 日の「核心」である。3時間かかりやつと

荒川出合。荒川の林道に入る。
 以前は途中で林道から取水管理道となつ
 ていたが、林道は二股よりさらに南沢に延
 びている。と二股にあつた吊り橋が無いの
 だ。しかたない靴を脱いで渡渉する。しば
 らくは取水管理道。30分ほど上がったとこ
 ろに管理小屋があつたが撤去されていた。
 撤去はいいのだけれども、ごみもすっかり
 と持ち帰ってほしいものだ。
 さて、ここから弘法小屋尾根。重荷に
 耐え、2300mの平坦地にBCを設置す
 る。
 2日(無風快晴) 7時、シールを付け
 て快適な登行を続ける。2600m辺りで
 板からアイゼン、ピッケルに代える。今年
 は4月に低温が続く、さらに山々には降雪
 が多かった。長い雪稜を延々と行く。最後
 は雪壁となり、アイゼンツアック登行。や

がて稜線に出た。3189mまで後100
 m。そして待望の山頂。13:30。長かった。
 登山靴からゲレ靴に履き替える。橋本、亀
 田、植松が滑りだす。金丸は登山靴で板履
 いているのでこけることは必須でしょう。
 山頂でもうこけます。しかし彼はダメであ
 れば尻セードで下ると言う。
 橋本・亀田の先を撮影のため植松がカー
 ルに飛び込んで行く。雪は表面の下がもな
 か状で重く快適とは言えない。しかし板は
 やはり早いのだ。あつと言う間にカール底
 に着いてしまう。
 振り返ればすごいロケーションである。
 亀田が滑り下りてきた。橋本は途中で止ま
 っている。なにかパフォーマンスを考えて
 いるのだろう。そして勢いよく滑りだした。
 と、重い雪にハマつたのだろう。板と人間
 が空中を飛んだ。物すごいこけかただ。そ
 の後ろを金丸が尻セードで落ちている。カ
 ール底に全員集合。さらに200mほど滑
 り弘法小屋尾根に登り返す。約600mの
 滑降だつた。テントに戻り祝杯を上げる。

3日(無風快晴) テントを撤収して下
 山、そして長い林道歩き。本日は祭日のた
 め工事はない、ゆえにダンブの恐怖はない。
 しかし核心は最後の開運トンネルのゲート
 だ。完全に鍵が掛っている。早川町では山
 菜祭りとなつてゲート前に観光客がいる。
 ヘッドランプをつけた我々に驚きの様子。
 そしてどうやってここから出るのですか？
 これで動物園状態である。われわれが
 おりの間からスキーの板とか重量物を出し
 ていくと手伝ってくれるのだ。そして最後
 は1人づつゲート上から出ていき今回の山
 行は終了。この道は歩くことも許されない
 のでしょうか。
 (植松)

TERNUA
 non gogosa, non zagosa. Surda set fan paqanqanita, epi tua pusa. (Gwertha veala)

スペインの人気ブランド上陸。

本格登山に対応するハイスpekウェアから、トラベル、ライフスタイルをテーマとしたカジュアルなウェアまで、幅広いラインナップでスペインで抜群の人気を誇るアウトドアブランド、テルヌア。ブランド名の由来は、何百年もの昔、バスク人が数千キロの旅をしてみつけたテルヌア島(現在のニューファンドランド島)からつけられ、そんな場所へ向かう信念、決意、勇気が込められている。ICI石井スポーツを拠点に展開される新作には機能性だけでなく、ファッション性も取り入れられたTシャツやパーカなど、従来のアウトドアブランドとは一線を画すアイテムもラインナップと見逃さない

登山用品全般(冬山・沢登り・クライミング・山スキー・テレマースキー) 高所作業用品・スキー用品取扱い

ICI 石井スポーツ
甲府店
 www.ici-sports.com
 〒400-0814 山梨県甲府市上阿原町481-1
 TEL.055-221-0141
 営業時間: 平日・土 / 10:30~20:00
 日・祭日 / 10:30~19:00